

東洋・日本美術史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
東洋・日本美術史特論Ⅰ	信仰と造形	2	長岡 龍作	1学期	月	2	1
東洋・日本美術史特論Ⅰ	古代・中世仏教絵画史 研究	2	泉 武夫	集中(1学期)			2
東洋・日本美術史特論Ⅱ	信仰と造形	2	長岡 龍作	2学期	木	2	3
東洋・日本美術史特論Ⅲ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	1学期	水	3	4
東洋・日本美術史特論Ⅳ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	2学期	水	3	6
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	美術史基礎資料読解	2	長岡 龍作	1学期	水	4	8
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	美術資料を読む	2	杉本 欣久	2学期	水	4	9
課題研究 (東洋・日本美術史)		4	長岡 龍作 杉本 欣久	通年	水	5	

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LM11206， 科目ナンバリング：LHI-ART601J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

信仰と造形

2. Course Title (授業題目)：

Faith and Creation of Image

3. 授業の目的と概要：

この講義では、東アジアの宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、舍利信仰の広がりや美術の様相を見た後、東アジアの各時代の美術を取り上げ、特に世界観との関わりからその意味と表現を探っていく。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と美術の関係を理解する。
- (2) 美術に投影された世界観を理解する。
- (3) 表現を理解する方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 「日本美術史」のはじまり1 「日本美術史」前史
3. 「日本美術史」のはじまり2 「日本美術史」の成立
4. 「日本美術史」のはじまり3 「日本美術史」の展開と相対化
5. 舍利信仰と美術1
6. 舍利信仰と美術2
7. 舍利信仰と美術3
8. 中国南北朝時代の世界観と造形1
9. 中国南北朝時代の世界観と造形2
10. 中国隋唐時代の世界観と造形1
11. 中国隋唐時代の世界観と造形2
12. 中国五代北宋の世界観と造形1
13. 中国五代北宋の世界観と造形2
14. 朝鮮半島三国時代の仏教美術
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像―祈りと風景』（敬文舎）2014年

8. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：泉 武夫（非常勤講師）

講義コード：LM98824、科目ナンバリング：LHI-ART601J、使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代・中世仏教絵画史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study about Japanese Buddhist paintings in the ancient and medieval times

3. 授業の目的と概要：

美術として今日とらえられる作品は多様な側面をもっており、作品の理解には多方面からのアプローチが欠かせない。この授業では、仏教絵画の最盛期であった平安から鎌倉時代における仏画を中心とした絵画作品を取りあげ、様式史のみならず種々の視点からの理解法を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本絵画の見方に対する基本的知識を習得する。
- (2) 仏画を中心とした古代・中世絵画史の様式史的分析法のみならず、それが存立した当時の宗教信仰・思想・社会的状況との関係を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は以下のようなテーマで進めてゆく

- 1) 仏画の様式史概観
- 2) 仏画研究へのアプローチⅠー図像とその表現
- 3) 仏画研究へのアプローチⅡー儀軌と「意楽」
- 4) 密教絵画の諸相Ⅰー曼荼羅と集合像
- 5) 密教絵画の諸相Ⅱー礼拝の本尊像
- 6) 浄土思想とその造形Ⅰー来迎図の発生と展開
- 7) 浄土思想とその造形Ⅱー盛期の来迎図
- 8) 浄土思想とその造形Ⅲー密教思想との交差
- 9) 荘厳の思想と表現Ⅰー金色の表象と意味
- 10) 荘厳の思想と表現Ⅱー「美麗」の価値観
- 11) 中世の神仏表現Ⅰー弥勒思想と絵画
- 12) 中世の神仏表現Ⅱー垂迹画の諸相
- 13) 中世の神仏表現Ⅲー「悲華経」の結ぶ世界
- 14) 素材の意味と表現Ⅰー銀と雲母
- 15) 素材の意味と表現Ⅱー絹地が語るもの
- ・・・

6. 成績評価方法：

レポート・出席

7. 教科書および参考書：

教科書はなし。参考書は授業で示す。

8. 授業時間外学習：

美術全集などの図録で、各自、作品情報をアップデートするのが望ましい

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LM21202， 科目ナンバリング：LHI-ART602J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

信仰と造形

2. Course Title (授業題目)：

Faith and Creation of Image

3. 授業の目的と概要：

この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、平安後期の造形と日本中世の造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていく。さらに、空間と造形の関わりについても論じる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と造形の関係を理解する。
- (2) 造形に投影された世界観を理解する。
- (3) 造形表現を理解する方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 平安時代後期の信仰と造形 1
3. 平安時代後期の信仰と造形 2
4. 平安時代後期の信仰と造形 3
5. 平安時代後期の信仰と造形 4
6. 日本中世の信仰と造形 1
7. 日本中世の信仰と造形 2
8. 日本中世の信仰と造形 3
9. 日本中世の信仰と造形 4
10. 空間と造形 1
11. 空間と造形 2
12. 空間と造形 3
13. 空間と造形 4
14. 空間と造形 5
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像―祈りと風景』（敬文舎）2014 年

8. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：杉本欣久（准教授）

講義コード：LM13305， 科目ナンバリング：LHI-ART603J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：

The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器（プロジェクター）を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 狩野派の系譜（室町から桃山）
- 3 回目 狩野派の系譜（江戸狩野と英派）
- 4 回目 8 代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 5 回目 日本刀の精神
- 6 回目 刀装具と鐔の意匠性
- 7 回目 京都の町絵師（俵屋宗達から宮崎友禅へ）
- 8 回目 尾形光琳と乾山
- 9 回目 雪舟流 1 一雲谷派と長谷川派一
- 10 回目 雪舟流 2 一江戸と京都一
- 11 回目 対外交渉と長崎派
- 12 回目 沈南蘋と南蘋派
- 13 回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 14 回目 浮世絵 1
- 15 回目 浮世絵 2

6. 成績評価方法：

レポートと平常点(5:5)による評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

【平常点】出席を前提とすることから、3 分の 1 以上を欠席した者には単位を与えない。

また、出席についての不正行為が見つかった場合には単位を与えない。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

9. その他：

初回の授業は必ず出席すること。レポートの採点を受けるためには、全体の3分の2以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅳ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：杉本欣久（准教授）

講義コード：LM23307， 科目ナンバリング：LHI-ART604J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：

The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器（プロジェクター）を使用して美術作品を鑑賞する。

1 回目 ガイダンス

2 回目 作品の見かた一補筆・改変

3 回目 作品の見かた一真贋

4 回目 武士の絵画 1 一鑑戒

5 回目 武士の絵画 2 一暢神

6 回目 京都と円山派 1

7 回目 京都と円山派 2

8 回目 京都と四条派

9 回目 仏教における復古思想と書画

10 回目 大坂の絵画

11 回目 伊藤若冲

12 回目 考古の黎明と宝物の記録

13 回目 江戸の絵画 1 一明清画派（渡辺玄対・谷文晁）

14 回目 江戸の絵画 2 一洋風画（渡辺崋山・司馬江漢）

15 回目 東北の画人

6. 成績評価方法：

レポートと平常点(5:5)による評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

【平常点】出席を前提とすることから、3 分の 1 以上を欠席した者には単位を与えない。

また、出席についての不正行為が見つかった場合には単位を与えない。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ること

ができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

9. その他：

初回の授業は必ず出席すること。レポートの採点を受けるためには、全体の3分の2以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅰ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LM13405， 科目ナンバリング：LHI-ART605J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術史基礎資料読解

2. Course Title (授業題目)：

Reading the historical documents of art history

3. 授業の目的と概要：

この演習では、美術と深く関わる基礎資料を読み込み、その内容が残されている美術作品とどのように関わっているかについて探求し、資料の創造的な読みを実践しようとするものである。『菅家文草』・『本朝文粹』・『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』・『江都督納言願文集』から造像に関わる願文を選び、それを素材としていく。

4. 学習の到達目標：

基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探求する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー造像銘記ならびに納入文書について
2. 発表準備
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 像内文書・願文を読む
7. 像内文書・願文を読む
8. 像内文書・願文を読む
9. 像内文書・願文を読む
10. 像内文書・願文を読む
11. 像内文書・願文を読む
12. 像内文書・願文を読む
13. 像内文書・願文を読む
14. 像内文書・願文を読む
15. 総括と講評

6. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表内容 [50%]

7. 教科書および参考書：

テキスト：『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）、『菅家文草 菅家後集』（日本古典文学大系 岩波書店）、『本朝文粹』（新日本古典文学大系 岩波書店）、『江都督納言願文集注解』（塙書房）

8. 授業時間外学習：

参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：杉本欣久（准教授）

講義コード：LM23407， 科目ナンバリング：LHI-ART606J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術資料を読む

2. Course Title (授業題目)：

Training to read information of Japanese art work

3. 授業の目的と概要：

「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めぐる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは、「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現するため、毎回、日本美術史が扱う絵画、彫刻、工芸など諸分野のなかから 1 作品を取り上げ、そこから読み取るべき情報の獲得を訓練するプログラムである。隔週ごとに方法が変わるが、いずれも学習者が発表する実践形式をとる。一方は類似する 2 作品のプリントを配布し、作品間に存在する相違点を観察して指摘していく。もう一方は、1 作品のプリントとその解説を配布し、内容に優先順位を踏まえたうえでの必要な情報が提示されているか、具体的な論拠は示されているかなど、その問題点や矛盾点を指摘していく。

4. 学習の到達目標：

美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。試みに、ある作品を調査せよと指示すれば、多くが実物を観察するより先に、それについて記された本を探すことから始めてしまうだろう。このような姿勢では、いつまで経っても作品そのものから情報を引き出すことはできない。

そこで本講は、作品を置き去りにしないために、対象に即して読み取るべき情報とは何かを考え、その優先順位を見極め、さらにそれを的確な言葉で表現する能力の養成を目的とする。作品から情報を読み取る「インプット」と、それを第三者に伝える「アウトプット」の両面を重視し、単に美術作品にとどまらない情報収集能力と説明能力の向上を目指す。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

最初の 30 分を作品観察、解説批判の時間とし、続く 30 分でその結果を発表する。最後の 30 分は視覚機器(プロジェクター)を使用し、講師が作品について論じる。

1 回目 ガイダンス

偶数回 作品比較

奇数回 解説批判

6. 成績評価方法：

授業で配布するプリントを分析し、その質疑応答によって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。

人前で話すのが苦手であったり、めんどうであるといった人には不向きである。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

9. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。